

情報教育モデルカリキュラムづくりについて

嘉麻市情報教育推進協議会

平成31年2月19日（火）

1 情報教育カリキュラムの在り方

(1) これまでのカリキュラム

これまでは教育の情報化に向け、教員と生徒のICTリテラシー向上を図ることが急務であったため、情報機器の活用に重点を置いたものになっていた。「授業内で情報機器を使うこと」が情報教育であると安易に捉えられ、情報機器活用の教育的効果や情報モラル、論理的思考の育成という視点の弱いカリキュラムが多く見られた。（情報機器使用実践の羅列など）

(2) これからのカリキュラム ※新学習指導要領全面実施に向けて

新学習指導要領（小学校は平成32年度全面実施、中学校は平成33年度全面実施）において、情報活用能力が学習の基盤となる資質、能力と位置付けられた。そのため、情報教育の目標3観点（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）をバランスよく育成することが重視され、情報機器を使わない授業でも情報教育カリキュラムの中に情報教育の視点を明確にして位置付けることが重要となる。その際に学習内容との関係性が分かるように、単元レベルで位置付けていくことが望ましい。

2 情報教育モデルカリキュラムの位置付け

情報教育モデルカリキュラム（以下、「モデルカリキュラム」）において、これから行おうとしている実践が情報教育として捉えられるのか、教育課程上、どの教科等に位置付けられるのかを明確にすることで、教員の授業計画作成の際に情報教育の視点を位置付けしやすくなる。それが、モデルカリキュラムの役目である。

本年度は小中とも新学習指導要領への移行期間であるが、暫定的ながら単元レベルへの位置付けを目指した。今後、教科書採択（小学校は平成31年度、中学校は平成32年度、使用開始はその翌年度）により教科書発行者の変更の可能性があるため、今後見直していくことを必要とするが、まずは新学習指導要領全面実施の早い小学校のモデルカリキュラム作成に重点を置いた。なお、中学校については平成31年度にモデルカリキュラム作成に取り組み、平成33年度の新学習指導要領全面実施に備えることとする。

3 今後の作成・更新の方針

平成31年度、小学校については、「外国語活動・外国語」「プログラミング体験」を中心に移行期間の実践を整理して、モデルカリキュラムに追記していく。中学校については、市内中学校各教科における実践事例の収集を幅広く行い、モデルカリキュラム案を作成する。可能であれば、モデルカリキュラム内の実践に関する情報（ワークシートデータ、リンク集など）を整理し、授業や準備の際にホームページ上でアクセスできるように整備することで授業者支援につなげたい。

4 プログラミング体験（小学校）・プログラミング（中学校）について

今後、ビジュアル型プログラミング言語（スクラッチ等）を活用した探求的な学習（プログラミング体験）は小学校を中心に行われる。移行期間中の中学校技術科においては、小学校でビジュアル型プログラミング言語を体験していない生徒がいるため、スクラッチを活用することでプログラムの概念を育成することが可能である。しかしながら、平成32年度以降は小学校でプログラミング体験を経験した生徒が中学校に入学してくるので、テキスト型プログラミング言語（東京書籍はHTML）の活用が考えられる。

(参考資料)

